

令和6年度 全国学力・学習状況調査【小学校】調査結果の概要

1 全国平均を100とした標準化得点（上段）と平均正答数（下段） （△全国より上位、▼全国より下位）

地域 調査項目 年度	阿 賀 野 市											
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
国語A：知識	▼98	△101	▼98	△101	▼99	△101	100	▼99	▼98	▼98	▼99	100
国語B：活用	▼98	▼99	100	▼98	▼99	▼99	▼99					
算数A：知識	▼98	△101	100	▼99	△101	100	100	97	▼98	▼97	▼99	▼98
算数B：活用	▼98	100	▼98	▼98	▼99	▼98	▼98					
理 科	100	*	*	▼99	*	*	▼99	*	*	▼98	*	*
国語A：知識	13.3/17	11.7/18	10.5/15	10.0/14	10.8/15	11.4/15	8.4/12	8.7/14	8.4/14	8.7/14	9.1/14	9.4/14
国語B：活用	5.5/11	4.8/10	5.6/10	5.5/9	5.6/10	5.0/9	4.3/8					
算数A：知識	13.3/19	15.1/19	13.2/17	11.9/16	12.7/16	11.7/15	8.8/14	8.4/14	10.6/16	9.1/16	9.5/16	9.4/16
算数B：活用	7.0/13	7.6/13	7.1/13	5.4/13	5.9/13	4.7/11	4.6/10					
理 科	14.5/24	*	*	13.9/24	*	*	9.3/16	*	*	10.1/17	*	*
調査対象	全学校	(*)全校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校

平成31年度からは、「知識」と「活用」という問題の区分がなくなり、一体的に調査問題が構成されています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、調査は見送りとなりました。

全国学力・学習状況調査は、学力の一部分、学校における教育活動の一側面を示していることに過ぎないことに留意する必要があります。

2 標準化得点、平均正答数

標準化得点は、国語科は改善し全国平均になりましたが、算数科は前年度調査より下降し、全国を2ポイント下回りました。平均正答数をみると、国語科は全国平均を0.1問、算数科は全国平均を0.7問下回りました。阿賀野市の児童は、国語科は全国と同程度の学力状況ですが、算数科は全国をやや下回る学力状況であるといえます。

3 児童質問紙調査に見られる課題と対応

(1) 児童の学習意識と学校の授業改善

① 学習に対する関心・意欲・態度

阿賀野市の児童の教科に関する意識は、設問項目の多くで肯定的評価が全国を上回っています。学力向上に向けて重要な指標となる「教科の勉強が好き」は、国語科は全国を1.5ポイント上回りましたが、算数科は全国を5.8ポイント下回りました。また、「授業内容はよく分かる」の設問についても、国語科は全国を4.7ポイント上回りましたが、算数科は全国を3.3ポイント下回りました。算数科は全国を下回っていますが、その差が3.3ポイントであることを考えると、阿賀野市児童の教科に関する意識は概ね良好であるといえます。

② 授業改善の推進

各小学校は、真摯に授業改善に取り組んでいます。これまでの調査と同様、阿賀野市の児童は算数科に苦手意識をもっている様子がうかがわれます。今後も「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現及び思考力・判断力・表現力の育成に向け、一層の授業改善を進めことが大事であると考えます。併せて、基礎的・基本的内容を定着させるための繰り返し学習をする時間の確保が大事であると考えます。

(2) 家庭での過ごし方と学習習慣の改善

① 生活習慣

「朝食摂取」、「定時就寝・定時起床」など生活の基本となる習慣については、肯定的評価の割合は全国をやや上回っており、良好な状況にあるといえます。「定時就寝・提示起床」については良好な状況ですが、それ以上に大事なことは、実質的な睡眠時間の確保です。睡眠時間の大切さについて、学校での保健指導とともに、保護者と連携し継続的に指導していく必要があります。

② 学習習慣

平日の家庭学習時間で、「1時間以上」の児童は69.1%を占め、全国を14.5ポイント上回りました。しかし、「2時間以上」に限ると、全国を13.2ポイント下回っています。土曜日や日曜日の家庭学習時間についても、数値は異なりますが、傾向は同様の状況です。小学校では、学習習慣の定着を目的として、家庭学習時間については「学年×10分」を目標に指導してきました。その結果、学習習慣は定着しつつあると考えます。しかし、「1時間未満（全くしないを含む）」の児童の割合は全国を下回るものの30.6%います。この児童の状況を改善することが必要です。個々の児童の実態に配慮しつつ、家庭学習時間を伸ばすことが大事であると考えます。そのためには家庭学習の質の向上が不可欠です。ドリル以外にも、授業内容との密接な関連を図った学習（その日の学習の振り返りや予習）などを課題として与え、家庭学習をすることの良さを実感させていくことが必要であると考えます。

また、家庭学習時間の確保に向けては、PCやタブレット、スマートフォン使用の時間を短くする必要があります。家庭への協力依頼とともに、児童への一層の指導が必要であると考えます。

令和6年度 全国学力・学習状況調査【中学校】調査結果の概要

1 全国平均を100とした標準化得点（上段）と平均正答数（下段） （△全国より上位、▼全国より下位）

地域 調査項目 年度	阿 賀 野 市												
	21年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
国語A：知識	▼98	▼97	▼96	▼99	▼97	100	▼98	▼97	▼99	▼98	▼98	▼95	▼97
国語B：活用	▼97	▼96	▼96	▼99	▼99	▼99	▼98	▼97					
数学A：知識	▼96	▼96	▼94	▼96	▼97	▼99	▼98	▼96	▼97	▼95	▼96	▼95	▼96
数学B：活用	▼97	▼95	▼94	▼96	▼97	▼99	▼98	▼96					
理 科	*	▼96	*	*	▼97	*	*	▼97	*	*	▼97	*	*
英 語									▼97	*	*	▼94	*
国語A：知識	24.1/33	22.4/32	22.2/32	25.2/32	23.7/32	25.2/33	23.6/32	22.7/32	7.1/10	8.6/14	9.0/14	8.8/15	7.8/15
国語B：活用	7.6/11	5.0/9	5.1/9	4.3/9	5.7/9	5.8/9	6.1/9	5.0/9					
数学A：知識	18.2/33	19.8/36	18.2/36	21.3/36	20.8/36	21.7/36	21.7/36	20.8/36	8.6/16	7.4/16	6.0/14	5.6/15	6.7/16
数学B：活用	7.3/15	5.8/15	4.5/16	7.7/15	5.2/15	6.3/15	6.6/15	5.2/14					
理 科	*	11.2/26	*	*	11.5/25	*	*	16.1/27	*	*	9.0/21	*	*
英 語									10.6/21	*	*	5.2/17	*
調査対象	全学校	(*)全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校

平成31年度からは、「知識」と「活用」という問題の区分がなくなり、一体的に調査問題が構成されています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、調査は見送りとなりました。

全国学力・学習状況調査は、学力の一部分、学校における教育活動一側面を示していることに過ぎないことに留意する必要があります。

2 標準化得点、平均正答数

標準化得点は、国語科は全国を3ポイント、数学科は全国を4ポイント下回りましたが、国語科、数学科ともにわずかですが前年度調査より改善しました。平均正答数をみると、国語科は全国平均を0.9問、数学科は1.7問下回りました。阿賀野市生徒の学力はやや改善したものの、全国と比較すると低い状況にあるといえます。阿賀野市生徒にとって、基礎的・基本的学習内容の確実な習得とともに、思考力・判断力・表現力の育成が依然として課題であるといえます。

3 生徒質問紙調査に見られる課題と対応

(1) 生徒の学習意識と学校の授業改善

① 学習に対する関心・意欲・態度

阿賀野市の生徒の教科に関する意識は、設問項目の多くで肯定的評価が全国を上回っています。学力向上に向けて重要な指標である「教科の勉強が好き」及び「授業が分かる」についてみると、国語科では「勉強が好き」が9.7ポイント、「授業が分かる」が5.0ポイント全国を上回りました。数学科では、「勉強が好き」は全国を6.6ポイント、「授業内容が分かる」は全国を3.8ポイント下回りました。教科では、阿賀野市の生徒は数学に苦手意識をもっている様子が見られます。

② 授業改善の推進

各中学校は、令和3年度に始まった新しい学習指導要領の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組んでいます。中学校の授業でも、班活動を取り入れるなど、教師主導の授業から、生徒が主体となって活動する授業へと変わりつつあります。しかし、一人で課題にじっくり取り組むことや友達との対話の中で確実に理解する活動に課題があると考えます。また、生徒は、特に自分の考えを書く、言葉で説明することに抵抗があるようです。一層の授業改善が必要であると考えます。

(2) 家庭での過ごし方と学習習慣の改善

① 生活習慣

「朝食摂取」「定時就寝・起床」の規則正しさはいずれの項目も国を上回っており、良好な状態にあるといえます。「定時就寝・提示起床」については良好な状況ですが、それ以上に大事なことは、実質的な睡眠時間の確保です。睡眠時間の大切さについて、学校での保健指導とともに、保護者と連携し継続的に指導していく必要があります。

② 学習習慣

学習習慣については、平日の家庭学習時間で、「1時間以上」家庭学習をしている生徒の割合は62.2%となり全国を2.1ポイント下回っているものの、前年度調査から12.3ポイント上昇し、「1時間未満（全くしないを含む）」の生徒の割合は37.9%となり、前年度調査から12.0ポイント減少しました。家庭学習時間については、若干改善が見られます。しかし、家庭学習「2時間以上」の市生徒の割合は23.9%であり、全国を7.8ポイント下回っています。学力向上には、授業改善とともに、家庭学習も不可欠です。家庭学習の一層の充実に向け、授業内容との密接な関連を図った学習（その日の学習の振り返りや予習）などを課題として与え、家庭学習をすることの良さを実感させていくことが必要であると考えます。

また、家庭学習時間の確保に向けては、PCやタブレット、スマートフォン使用の時間を短くする必要があります。家庭への協力依頼とともに、生徒への一層の指導が必要であると考えます。